

平成 24 年度大阪医科大学医師会総会報告

中央検査部 村尾 仁

日 時 : 平成 24 年 6 月 11 日 (火) 18 時 00 分～
場 所 : 第 2 会議室 (総合研究棟 12 階)
議 長 : 米田 博 (副会長)
出席者 : 河野、米田、平松、上杉、浮村、岡田、亀谷、白田、村尾、
西本、田窪、上田、黒川、奥、大槻
(出席者 15 名、委任状 257 名 計 272 名
医師会員数 493 名の過半数により会議成立)

1. 追悼 (瀧内比呂也先生に哀悼を表す)

2. 平成 23 年度事業報告 (河野会長)

1) 大阪医科大学医師会の充実

会員数が 490 名 (平成 23 年 5 月 31 日現在) となり、前年度末より 35 名増となった。

研修医の入職時のオリエンテーションにおいて、米田副会長が説明し、勧誘を行った。

東北地方太平洋沖地震災害救援の義援金として、大阪医科大学医師会から 100 万円、個人会員から 10 万円、計 110 万円を 5 月 9 日に大阪府医師会を通じて募金した。この義援金の用途は、1) 避難所等で診療行為を行う被災した医師への支援、2) 仮設診療所の設置、3) 被災した医療機関の復旧支援、4) 被災した医師会の支援等である。

ペイオフリスク分散のため、大阪医科大学医師会の預金のうち三井住友銀行預け入れ分 1,000 万円を大阪府医師信用組合 5 年大口定期預金 (年利 0.80%) に移行した。日本医師会生涯研修制度は、医師免許生涯交付のために医師が自主的にしっかり研修していることを示す大切な制度である。研修会参加時には、必ず大阪府医師会生涯研修チケットを提出するよう指示があった。

大阪医科大学医師会ホームページに研究業績ページを新設して、大阪府医師会地域医療活動支援事業研究助成を受けて大阪医科大学医師会と高槻市医師会が共同研究を行った「高槻市国民健康保険特定健康診査について」を掲載した。

2) 大阪医科大学医師会の学術活動

「大阪医科大学医師会報」を 2 号発行した。第 36 号 (9 月 15 日発刊) は「東日本大震災特集号」と題して、大阪医科大学災害対策委員会の立ち上げから現地派遣等の活動実績を報告した特別号である。通常より 300 部多い 1,000 部を発行し、全国の大学医学部、医師会、厚生労働省などの行政にも配布した。第 37 号 (3 月

15日発行)では「医師会をもっと知ろう」を特集として掲載した。

学会等助成は、平成22年度に選考した平成23年度分5学会に各10万円計50万円を助成し、6月14日大阪医科大学医師会総会内で受賞式を行った。10月に平成24年度分の公募を行い、12月12日に選考を行い、4学会に助成することを決定した。

11月6日(土)に開催された大阪府医師会平成24年度医学会総会において、白田会員が「特定健診に関する医療機関アンケートの調査結果について」を、谷本会員が大阪府女医会を代表して「大阪府における女性開業医の実態について」を発表した。

北摂四医師会医学会総会が、6月18日(土)に茨木市こども健康センターで開催され、特別講演1題、一般演題14題の発表があった。

分科会は、「ほくせつフットケアカンファレンス」が新設され分科会数は17となり、研究会を計13回開催した。産業医講習会も4回開催した。

大阪府医師会勤務医部会第2ブロックは、ブロック委員会5回、ワーキンググループ4回開催し、積極的に活動した。

北摂四医師会医学会総会一般演題の中から優秀演題賞を3題選出して5万円ずつ賞金を授与した。1月14日に開催した第2ブロック研修会では、昨年度から研究を行っている「コメディカルを対象とするアンケート調査」について発表した。

本アンケートは第2ブロック委員が勤務する総合病院および急性期病院の3,196名を対象実施し、回収率は94.2%であった。大阪府医師会勤務医部会第1~4ブロック合同懇談会は、当番ブロックとして12月8日に開催した。

3) 大阪府医師会・在阪5大学医師会・地域医師会との連携強化

大阪府医師会の郡市区等医師会長協議会や代議員会、各種部会や委員会に積極的に参加した。

10月12日に在阪5大学医師会役員と勤務医部会役員との懇談会が開催され、また3月8日に大阪府医師会役員と大阪医科大学医師会役員の懇親会が開催され、意見交換を行った。

全国大学医師会連絡協議会の総会が2月5日(日)に東京医科歯科大学で開催され、米田副会長が参加した。

3. 平成23年度会計報告・会計監査報告(白田会計)

全会一致で承認された。

4. 平成24年度事業計画(河野会長)

1) 大阪医科大学医師会の充実

会員数が493名(平成24年5月31日現在)となった。

4月2日に開催された研修医の入職時オリエンテーションで大阪府医師会理事が医賠償保険の重要性について説明し、医師会への勧誘を行った。

木下理事（整形外科学）の退職に伴い、大阪府医師会代議員をも兼ねる理事の後任を上杉評議員（放射線医学）に、上杉評議員の理事就任に伴い空席となる予備代議員を大道会員（産婦人科学）に、退職された土居予備代議員（麻酔科学）の後任を田中評議員（麻酔科学）に、内科学Ⅰの評議員を石田志門会員に、教育機構の評議員を寺崎評議員（内科学Ⅲより異動）に、内科学Ⅲの評議員を浮村会員に委嘱することとなり、全会一致で承認された。

臼田会計より、事務員退職金（5万円／年）が突然の支出にならないように、毎年度末に1年分を編入金に移行すること、今年度は過年度分も計上することが提案され、全会一致で承認された。

2) 大阪医科大学医師会の学術活動

例年通り、「大阪医科大学医師会報」（年2回発行）、「北摂四医師会医学会記録集」（年1回発行）を行う。会報38号は特集として「感染対策の地域ネットワーク」を掲載する予定である。

学会等助成金は、昨年度選考した4学会に各10万円計40万円を助成し、平成25年度助成公募を10月1日より1か月間行う。大阪府医師会学術課より、「平成24年度医学生、研修医等をサポートするための会」の開催依頼があり、12月15日（土）に大阪医科大学歴史資料館で開催を予定している。予算は30万円である。北摂四医師会医学会は、6月16日（土）に第21回医学会総会が高槻市医師会の当番で実施される。分科会では、「三島感染症研究会」が新設された。

大阪府医師会勤務医部会第2ブロックでは、昨年度に引き続き積極的に活動を進めている。北摂四医師会医学会総会で、一般演題のうち発表者に勤務医が含まれる演題の中から、優秀演題賞3題を選考し、各5万円の褒賞を出すことになった。また、第2ブロック研修会を1月12日（土）に予定している。平成22年度より2カ年で研究を行った「コメディカルを対象とするアンケート調査」結果を11月の大阪府医師会医学会で発表する予定である。

3) 在阪5大学医師会・地域医師会との連携強化

在阪5大学医師会との懇談会への参加は元より、高槻市・茨木市・摂津市医師会との連携を深めていく。

例年通り、大阪府医師会郡市区等医師会長協議会、大阪府医師会代議員会、大阪府医師会各種委員会、ならびに全国大学医師会連絡協議会等にも参加する。

5. 平成24年度予算案（臼田会計）

全会一致で承認された。

6. その他（河野会長）

1) 平成24年度学会等助成金贈呈式の実施

選考された4つの学会の会長に、助成金の目録を贈呈した。

2) 役員の委嘱について

各役員に委嘱状を発行する。

3) 会員の入会資格について

大阪医科大学および大阪医科大学附属病院に勤務する医師のみに限定するのではなく、入会後に関連病院に出向する等大阪医科大学を離れて勤務している医師も入会資格がある旨、確認を行った。

4) 大阪府医師会定款の変更について

法人改革をうけて大阪府医師会が一般社団法人になったことに伴う、定款の一部改正について、大阪府医師会西本理事より説明があった。定款 41 条に総会の議事は「会員の 3 分の 2 以上の出席（以下省略）」となっているが、16,000 人を超える大阪府医師会では非現実的であるため、「出席会員の 4 分の 3 以上の多数による議決を必要とする」に改正することが、6 月 11 日に開催された第 69 回大阪府医師会臨時総会で議決された。

5) 次期会長の選出について

河野会長の定年退官に伴い、1 月頃に評議員会を開催して次期会長の選出を行いたい。大阪府医師会には 2 月末に来年度役員を報告しなければならない。

6) 新入職者の勧誘について

現在、研修医についてはオリエンテーションで医師会の説明ならびに勧誘が行われているが、レジデントや中途採用医師には案内ができていない。レジデントに対しては辞令交付式で、中途採用者に対しては安全対策研修会で、説明会を行うのが良い。医賠償保険に加入していないのはたいへん危険なことである。大阪医科大学で勤務している医師全員に、日本医師会以外の医賠償保険も含めて医賠償保険に加入しているかどうか、調査することとなった。

以上